

# 1. 不等式・ $\varepsilon$ - $\delta$ 論法

## 1-1. 不等式の基本性質.

- $x \leq y, y \leq z \implies x \leq z$ : 推移律 (transitive law)
- $x \leq y, y \leq x \implies x = y$ : 反対称律 (anti-symmetric law)
- 演算との関係:
  - ★  $x \leq y \implies x + a \leq y + a$
  - ★  $a > 0, x \leq y \implies ax \leq ay$
- $|x + y| \leq |x| + |y|$ : 三角不等式 (triangle inequality)

## 1-2. $\varepsilon$ - $\delta$ 式の極限の定式化.

- 関数  $f$  に対し、 $x \rightarrow a$  のとき  $f(x) \rightarrow b$   
 $(f(x) \text{ が } b \text{ に収束 (converge) する, } \lim_{x \rightarrow a} f(x) = b)$   
 $\iff \forall \varepsilon > 0 : \exists \delta > 0 : 0 < |x - a| < \delta \implies |f(x) - b| < \varepsilon$
- 関数  $f$  が  $x = a$  で連続 (continuous)  $\iff \lim_{x \rightarrow a} f(x) = f(a)$   
 $\iff \forall \varepsilon > 0 : \exists \delta > 0 : |x - a| < \delta \implies |f(x) - f(a)| < \varepsilon$

## 1-3. 演習問題.

- (1) 関数  $f(x) = x^3$  が、任意の実数  $a$  に対して  $x = a$  で連続であることを、 $\varepsilon$ - $\delta$  流で証明せよ。証明の形式は次に順うと良い。

$\forall \varepsilon > 0$  を取る。  
 $\delta = \boxed{\quad ? \quad}$  と取ると、  
 $0 < |h| < \delta$  に対し、

$$|f(a+h) - f(a)| < \varepsilon \text{ を示す}$$

従って、 $\lim_{x \rightarrow a} f(x) = f(a)$  となり、 $f$  は  $x = a$  で連続。

- (2) 2 つの関数  $f_1, f_2$  が共に  $x = a$  で連続であるとき、 $g(x) := f_1(x) + f_2(x)$  で定義される関数  $g$  (関数  $f_1, f_2$  の和といい、通常  $f_1 + f_2$  と書く) も  $x = a$  で連続であることを、 $\varepsilon$ - $\delta$  流で証明せよ。証明の形式は次に順うと良い。

$\forall \varepsilon > 0$  を取る。  
 $f_1$  は  $x = a$  で連続であるから、  
 $\exists \delta_1 > 0 : 0 < |h| < \delta_1 \implies |f_1(a+h) - f_1(a)| < \frac{\varepsilon}{2}$   
 $f_2$  は  $x = a$  で連続であるから、同様に、  
 $\boxed{\hspace{10em} f_2 \text{ に対し } |f_2(a+h) - f_2(a)| < \frac{\varepsilon}{2} \text{ を示す}$   
 $\hspace{10em} f_1 \text{ と同様}$

$\delta := \boxed{\quad ? \quad}$  と取ると、  
 $0 < |h| < \delta$  に対し、

$$|g(a+h) - g(a)| < \varepsilon \text{ を示す}$$

従って、 $\lim_{x \rightarrow a} g(x) = g(a)$  となり、 $g$  は  $x = a$  で連続。

- (3) 同様に、2 つの関数  $f_1, f_2$  が共に  $x = a$  で連続であるとき、 $h(x) := f_1(x)f_2(x)$  で定義される関数  $h$  (関数  $f_1, f_2$  の積といい、通常  $f_1 f_2$  と書く) も  $x = a$  で連続であることを、 $\varepsilon$ - $\delta$  流で証明せよ。

- (4)  $f(x) := \begin{cases} 1 & (x \text{ が有理数}) \\ 0 & (x \text{ が無理数}) \end{cases}$  で定義される  $f$  は、どんな  $x$  においても連続でないことを示せ。(どんな短い区間にも有理数・無理数がともに属することを用いよ。)

- (5)  $f(x) := \begin{cases} x & (x \text{ が有理数}) \\ 0 & (x \text{ が無理数}) \end{cases}$  で定義される  $f$  の連続性について論ぜよ。